

Step 4

事前の準備

受入先が決定したら、できるだけ事前に体験場所を確認し、現地で打合せを行います。その後は、電話やEメールなどで細かい連絡を取り合うと効率的です。受入先と協議の上、無理のない体験計画、当日のスケジュール、役割分担などを決定します。雨天時の対応、中止の場合の連絡なども忘れずに検討します。打合せ項目が多岐にわたるので、「チェックシート」(次ページ参照)を利用すると便利です。また、打合せ後チェックシートをFAX等で送ると安心です。

体験前に重要なことは、体験内容について子どもたちに興味・関心をもたせ、積極的に参加する意識を高めることです。これは全体の指導計画を立てる際に十分考慮すべきで、課題の設定、情報の収集(調べ学習)の時間などに、体験の目的と内容をはっきり認識できるよう指導することが大切です。

POINT

受入先との準備

事前の打合せは、できるだけ現地を見て行う。

体験の目的、ねらいを共有する。

人数が多くなるほど時間がずれこむので、スケジュールは余裕をもって作成する。

チェックシートを活用し、抜け、もれ、行き違いを防ぐ。

子どもたちとの準備

この体験で、何を知りたいか、どんな疑問や質問があるかを考える。

この体験内容が、自分たちの食生活や社会にどう関係しているかを調べる。

あらかじめ体験内容を説明し、グループ分けや役割分担を決めておく。(必要な役割などは、受入先と相談して決定)

出前授業のすすめ

体験を実施する前の「調べ学習」の時間に、受入先の農業者に学校に来てもらい、日々の仕事内容や農業の大切さ、大変さ、すばらしさについて、実際の経験を踏まえて講義をもらうと、子どもたちの興味・関心が高まります。

農業者に出席授業を依頼するときは、どんなテーマで、何を伝えてほしいか等を事前によく話し合うことが重要です。また、あらかじめ子どもたちから質問事項を集め、農業者に渡しておく、回答の準備ができるので授業がスムーズになります。

【講義内容例】

お米ができるまで

野菜作りの一年

酪農家の仕事

牛乳ができるまで

※ 受入農業者が事前授業を行うのが難しい場合は、関係機関などに依頼することも検討しましょう。



打合せチェックシート

この書式は、「元気もりもりどさんこの食育」のホームページからダウンロードして利用できます。
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/shs/data/project/step3.htm>

2012年 0月 00日(月)	担当者 (教員)氏名: _____ (農業者)氏名: _____
① 受入農業者・協力者	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 牧場 家族4名、協力者2名(農業実習生)
② 体験人数	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 小学校5年1組 男子18名、女子18名(計36名)、引率者3名
③ 体験月日・時間	2012年 0月 00日(月) 10:00 ~ 14:00
④ 体験スケジュール	<p>9:40 バスで現地到着</p> <p>10:00~10:30 牛舎前集合・オリエンテーション 牛の体の仕組み、牛の一生などについて講義</p> <p>10:40~11:00 牛舎見学</p> <p>11:10~11:50 6班に分かれて搾乳体験～後片付け</p> <p>12:00~12:50 昼食(休憩場所に移動)</p> <p>13:00~13:30 牛舎清掃～後片付け</p> <p>13:40~14:00 農業者からコメント、子どもたちからお礼の言葉、感想発表</p> <p>14:15 バスに乗車、出発</p>
⑤ 役割分担	<p>担任:全体の進行管理、子どもの誘導</p> <p>副担任:デジカメ記録、体調不良の子どもの対応</p>
⑥ 準備するもの	<p><input type="checkbox"/>各自の持ち物 ----- 着替え、タオル、帽子、弁当、飲み物、メモ帳、筆記用具</p> <p><input type="checkbox"/>服装 ----- 汚れてもいい服装(ジャージ上下)、運動靴</p> <p><input type="checkbox"/>教員が用意 ----- ハンドマイク、笛、救急用具</p> <p><input type="checkbox"/>受入先が用意 ----- 講義用資料(ポスター、パネル)、作業に使う道具(ミルカー、バケツ、スコップ、ブラシ)、消毒薬品、休憩場所準備(ブルーシート)、危険箇所の表示(ロープ、看板)</p>
⑦ アレルギー、身体等が 不自由な子どもの対策	牧場隣にある大豆畑には、近づかないよう注意。
⑧ 保険の加入	(独)日本スポーツ振興センター災害共済、施設賠償責任保険 加入済み
⑨ 体験費用	1名000円(事前に銀行振込にて支払い)
⑩ 雨天時の変更内容	オリエンテーション、講義は倉庫内で実施。牛舎清掃は中止し、農機具の実演に振替。
⑪ 中止判断と連絡方法	悪天候等で中止の場合、前日の16:00までに判断、携帯電話とFAXで連絡。
⑫ 緊急時連絡先	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 牧場 携帯電話 000-111-2222 自宅FAX000-111-4444 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 病院 電話000-111-6666 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 教育委員会 電話000-111-8888
⑬ 事前授業	0月00日() 10:00~10:45 出前授業(牧場の仕事について講義、質問対応)
⑭ その他、次年度への 引継事項等	

Step 5

体験実施

体験実施は、事前の打合せに基づき、前日または当日の決められた時間までに判断します。実施の判断は悪天候のほか、農業者側の都合（事故、病気、葬祭、作物や家畜の状況等）による場合もあるので、速やかに連絡を受けるよう手順を決めておきましょう。また、移動時の混雑や、出発の遅れなどで到着時間に遅れる場合は、必ず受入先に連絡します。

現地では、農業者の考えや活動の進め方を子どもたちに伝えます。また、子どもたちと一緒に水田に入ったり牛に触れたりして、教員も実際に体験し、理解を深めることも大切です。

POINT

農業者の考えや活動の進め方を子どもたちに伝える。

教員自身も、子どもたちと一緒に農業・農村を体験する。

安全対策、緊急対策は事前に十分検討し、当日も再度確認する。

参考

主な体験のタイムスケジュール例

田植え

午前2時間

- 10:00 集合、オリエンテーション
- 10:15 着替え、苗などの準備
- 10:30 田植え開始
- 11:30 泥落とし、後片付け
- 11:50 農業者からコメント、子どもたちからお礼の言葉
- 12:00 終了

用意するもの

着替え、タオル、サンダル、帽子、雨具
※小雨の場合は雨具を着用して実施します。

稲刈り

午前2時間＋午後1時間

- 10:00 集合、オリエンテーション
- 10:15 かまなどの準備
- 10:30 稲刈り開始
- 11:30 後片付け
- 12:00 昼食
- 13:00 脱穀、乾燥、粃すりなどの施設見学（ライスセンター）昔の農機具での作業実演
- 13:40 農業者からコメント、子どもたちからお礼の言葉
- 14:00 終了

用意するもの

軍手、着替え、タオル、帽子

野菜

（とうもろこし、トマト）の収穫
午前2時間

- 10:00 集合、オリエンテーション
- 10:20 収穫開始（もぎとり）
- 11:30 後片付け
- 11:50 農業者からコメント、子どもたちからお礼の言葉
- 12:00 終了

用意するもの

軍手、着替え、タオル、帽子、雨具